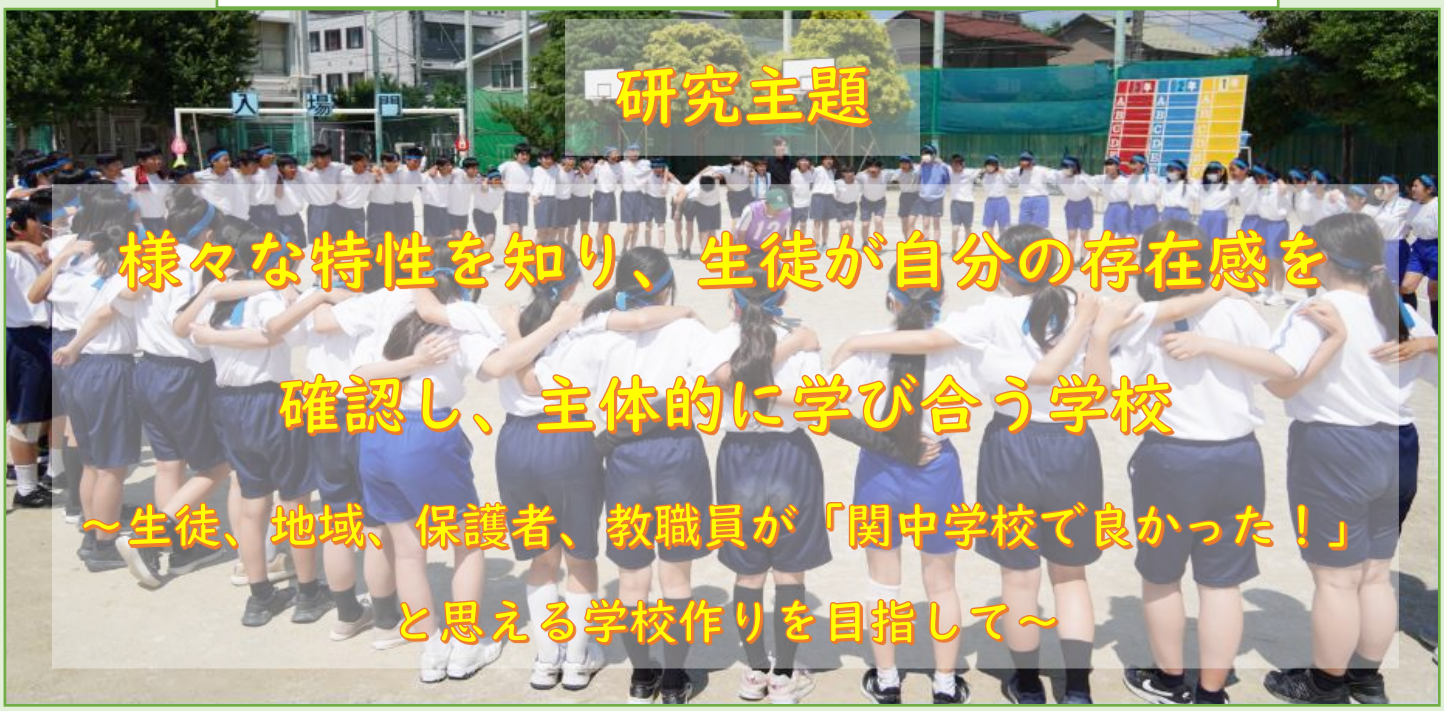
令和５・６年度　練馬区教育委員会教育課題研究指定校



練馬区教育委員会　教育長　三浦　康彰

令和３年１月、中央教育審議会の答申『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」では、他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら主体的に課題解決に挑む資質・能力を育成することの重要性が示されています。

そうした中、関中学校では、研究主題を「様々な特性を知り、生徒が自分の存在感を確認し、主体的に学び合う学校～生徒、地域、保護者、教職員が『関中学校で良かった！』と思える学校作りを目指して～」とし、「他者理解」「主体的な参画」を柱として研究に取り組みました。

具体的には、授業において異なる価値観について話し合うこと、障害者の話やパラスポーツ体験等から多様性を学ぶこと、学校行事の機会を生かし積極的に異学年で交流することなど、本研究資料から読み取ることができます。

研究に関わる取組を通じて、生徒は身の回りの人々の個性を尊重し、主体的に学校生活を送るようになり、自身の良さを再認識する姿が多く見られるようになった、と伺っています。まさに、本研究の大きな成果と捉えることができます。

結びにあたり、本校の研究に対し温かくご指導いただいた、東京聖栄大学　教授　有村　久春　先生に深く感謝を申し上げるとともに、本研究に取り組まれた大澤秀吉校長をはじめ教職員の皆様に敬意を表し、あいさつといたします。

練馬区立関中学校　校長　大澤　秀吉

通常学級に在籍する特別な支援を要する生徒の数は令和４年度文部科学省の調査でも増加の傾向を示しています。本校でも同様の傾向がみられ、本研究では特に「人権」・「道徳」・「特別活動」・「学校行事」などの活動を通じて、人はそれぞれ違っていてかけがえのない存在であることに気付くようにし、あらゆる他者の人権を認め、競争から協働・共生への変容を目的とした教育実践を行ってきました。

生徒と教員との、認識の違いを知るためのアンケートを実施し、学校行事などが本当に生徒主体で行われているのか、教員の都合でコントロールしていないかなど、様々な見直しを行いました。アンケートでは、支援を要する生徒と不登校傾向の生徒では、大きく異なる結果が得られ、お互いを理解するための対話や活動の大切さを痛感し、外部人材を活用した多様な体験活動や講話などを盛り込み、生徒の変容を促してきました。その結果、生徒たちの自発的な提案や主体的な活動、また OECD　ラーニングコンパス 2030　に見られるようなエージェンシーを生徒たちが発揮し、一部の生徒のみではなく学校全体として、より良い方向への変容が見られました。

今後は、教科などの学習における変容に向けての実践研究を進めてまいります。

本研究を進めるにあたり、東京聖栄大学 教授 有村久春 先生に丁寧なご指導を賜りました。ありがとうございました。そして、研究の機会をいただき、様々なご指導・ご支援をくださいました練馬区教育委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

練馬区立関中学校

研究構想図

教育目標

◎自分の命を大切にするたくましい人を育成する
○挨拶をする人であれ　○言葉を大切にする人であれ
○公正な人であれ　○健康な人であれ

生徒の実態

○周りの友達を理解し、助け合う姿勢が十分ではない。
○学校行事は好きだが、自ら主体的に係わっていこうという姿勢は十分ではない。

研究主題

様々な特性を知り、生徒が自分の存在感を確認し、主体的に学び合う学校
～生徒、地域、保護者、教職員が「関中学校で良かった！」と思える学校作りを目指して～

目指す生徒像

○他者と自分との違いを認め「他者理解」に基づき自ら考えて行動し、学校生活を送ろうとする生徒
○問題を自分のこととして捉え、「主体的な参画」を目指そうとする生徒

研究仮説

自分と他者の違いに理解を深めることができるような道徳科における授業改善、障害理解等を学ぶ機会の創出、生徒の主体性を活かす学校行事を通して、生徒が自分の存在感を確認し、主体的に学び合う学校になるだろう。

視点１　他者理解

手だて１＜道徳科における授業改善＞
- 他者理解を重視した年間指導計画
- 他者を尊重する態度の育成
- 自他の考えを共有する話合い活動の充実

手だて２＜障害理解等を学ぶ機会の創出＞
- 当事者や専門家による障害者理解の講演（全６回）
- 視覚障害や肢体不自由、パラスポーツ等の体験
- ユニバーサルデザインについての出前授業や障害児の支援者等による障害支援の啓発授業

視点２　主体的な参画

手だて＜生徒の主体性を活かす学校行事＞
○教職員の連携と指導
- 生徒主体の行事運営を目指した教員の意識改革

○学年を超えた交流の場の設定
- 運動会の縦割り活動
- 生徒会主催による他学年交流会

研究の流れ

第１期：生徒に実態アンケートを実施し、結果をもとにした実態把握と課題の分析
第２期：課題分析を踏まえた全校および学級ごとの取組
第３期：個々の生徒やクラスの変容を把握するため、実態アンケートの実施と結果の分析

視点１　他者理解

学校目標に合わせた他者理解に関する
価値項目の年間指導計画への位置付け

手だて１＜道徳科における授業改善＞

	自分の命を大切にするたくましい人を育てる			
重点目標	C Ⅱ 公正、公平、社会正義			
日程	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月
月目標	挨拶をする人であれ	言葉を大切にする人であれ	公正な人であれ	健康な人であれ
意図	あいさつは一番簡単なコミュニケーションの方法であり、相手を認める方法であることを知り、よりよい人間関係を築く下地をつくる。	自身の言葉が大きな力をもっていることを知り、相手への思いやりや他者を理解する力を育む。	他者との違いを認め、国籍や性別、障害のあるなしなどで判断せず、誰に対しても公平に接する力を育む。	次年度に向けて、心身ともに健康な状態で挑むために、自己肯定感を高め自身の良さに気付く力を育む。

【他者を尊重する態度の育成】
- 学校生活の中で、他者の考えを尊重することについて生徒自身で考え、意見交換する場面を設定した。
- 他者との考え方の違いを受容しながら学校生活を送るために必要なことについて話し合う活動を取り入れた。

【自他の考えを共有する話合い活動の充実】
- 物語の内容を自分ごととして捉え、意見を交換し、学校生活と関連付けられるように指導した。
- 小グループで考えを共有し、議論する時間を重視した。

手だて２＜障害理解等を学ぶ機会の創出＞

【視覚障害や肢体不自由、パラスポーツ等の体験】
- 他者理解において、共生していくことの重要性を実感させるため、視覚障害や肢体不自由等の当事者や専門家の実体験を聞き、あわせて体験会を行った。

視界が狭くてほとんど見えない・・・

一点に集中すると、視野が狭くなり
周りが見えなくなってしまう・・・

シールを貼りたいけど、手袋をしているからうまく貼れない・・・

生徒の変容について

他者理解の向上が見られた変容

　これまで様々な外部講師の方の話を聞いてきましたが、その中で視覚障害のある方の話が印象に残っています。その方は、障害があったとしても普通の人みたいに話しかけてほしいとおっしゃっていました。

　これまでは、障害がある人には、優しくしないといけないと思っていました。しかし、実際には普通に話しかけてほしいと思っている人もいることがわかり、今後障害等のある人と関わる時に、積極的に話しかけたいと思いました。

第３学年　生徒インタビューより

特別授業「心のバリアフリー」

運動会縦割り

学校行事への主体的な参画が見られた変容

　運動会練習の計画は実行委員が決めます。私は、他学年を限られた練習の中でしっかり１、２年生の様子を見ることを意識しました。私以外のクラスメイトも、自分たちが前向きに取り組んで、後輩たちにいい影響を与えようと意識していたと思います。

　将来、「運動は嫌いだったけどあの時楽しかったよね」と言ってもらえる行事にしたいと考えていました。縦割りでお揃いの応援グッズを作ることを友達が提案してくれました。運動以外の活動を通して、多くの人が積極的に運動会に関われるようになったと思います。

第３学年運動会実行委員インタビューより

先輩の姿に影響を受けての変容

　前期に学級委員をやっていて中央委員会に参加した時のことが印象に残っています。そこでは、先輩たちが「学年関係なく話ができる雰囲気を作りたい」と議論していました。先輩たちの話を聞いて、「壁のない学校を作りたい」という気持ちが強くなりました。生徒会選挙の公約では、「学年を越えたつながりを持てる学校作り」を掲げました。人によって得意不得意があるので、みんなが活躍できるようなものが作りたいです。

第１学年 生徒会役員へのインタビューより

生徒会役員選挙

視点２　主体的な参画

目指す学校行事の生徒の姿

生徒主体の行事

↑

教員主導の行事

手だて<生徒の主体性を活かす学校行事>

○教職員の連携と指導

【生徒主体の行事運営を目指した教員の意識改革】

・教員主導から生徒主体への行事運営の検討
・学年の違う教員間での活発な意見交換
・様々な生徒が一歩前に出て活躍できるような指導の工夫

他の生徒が主体的に取り組む姿勢を見て実行委員に挑戦した。

【学年を超えた交流の場の設定】

○運動会の縦割り活動

・上級生が下級生に大縄跳びのコツを指導
・朝学活で兄弟クラスと交流活動
・兄弟クラスのために応援歌を作成
・下級生が上級生の姿勢を見て意欲が向上
・上級生が下級生の変容を受けて団結力が向上

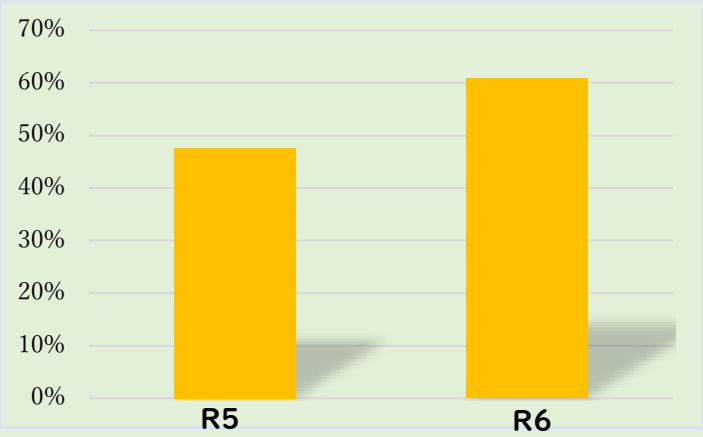
○生徒会主催による他学年交流会

・学年を超えた関わりを目的とした交流会を計画
・クラスの生徒の意見等を取り入れ検討
・各自の得意不得意など様々な生徒のことを考慮

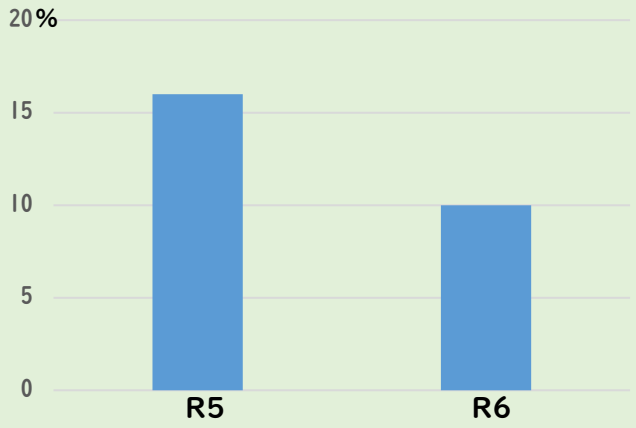
話合いの中でも運動が苦手な人もいるからトランプゲームも入れるなど、相手のことを考えた活発な意見交換が見られた。

アンケート結果

① 学校生活では一人一人の特性が違うことを理解している。

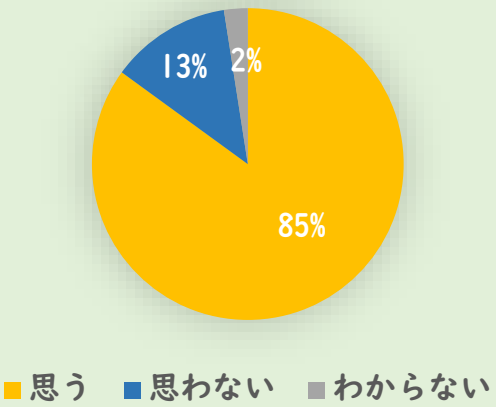


②自分は周囲の人を理解しているが、周囲の人は自分を理解してくれていないと感じる。

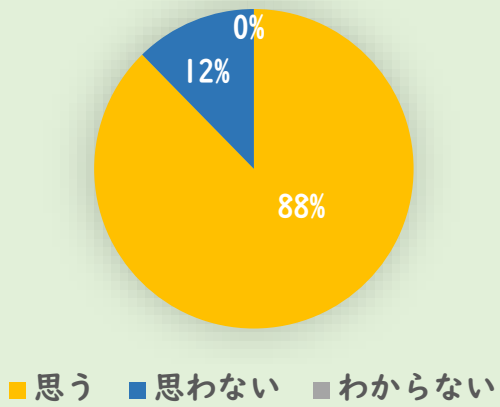


③関中学校に通って良かったと思うか？

【生徒】



【保護者】



成果

・他者を理解しようとする生徒が増え、学校生活で相手を尊重する姿が見られた。
・行事等に主体的に取り組む生徒が増え、学校満足度が上がった。

研究の考察

生徒の他者理解が深まることで、グループでの話合い活動や学校行事で活発な意見交換が行われるようになった。また、学校生活に主体的に取り組む機会をすることで行事を自分ごととして捉えられる生徒が増えた。本研究で得た成果をもとに行事以外の教育活動について、生徒主体の学校づくりを推進していく。